

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和6年6月19日（水）16：30～17：30

場 所：日本薬剤師会 第二会議室

出席者：山本会長、安部副会長

内容・提出資料：

1. 日薬第104回定時総会議案第3号に係る資料の差替えについて

安部副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

6月29日・30日に開催予定の第104回定時総会の資料については、5月28日付けで代議員に送付していたが、このうち「議案第3号 理事選任の件」について、6月14日付けで差替資料を送付した。当該資料中の理事候補者から2名を削除する変更により差替えに至った。なお、この度の資料の差替えは、次期会長候補者である岩月進の申し出に基づき、理事会の決議を受けて行ったものである。

2. 日本薬剤師会 公式キャラクターの募集結果について

安部副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会の公式キャラクターの募集については、2月から5月末まで募集を行い、計1,902件の応募があった。応募者の年齢層は6～82歳、男女比は1：3であった。現在、組織・会員委員会にて上位3案まで候補の絞り込みをしたところである。商標登録等の確認を経て、最優秀作品1点を決定し、9月22日の学術大会の開会式で公表および採用者の表彰授与式を行う。審査結果は8月を目途に採用者本人に直接通知し、賞金30万円を贈呈する。キャラクターは、さまざまな広報資料に活用する予定である。

主な質疑応答は以下のとおり。

〈薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会〉

記者：6月17日の薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会において、薬局に求められる機能・役割を整理する厚労省案が示されたが、あらためて見解はいかがか。

安部副会長：検討会では、健康サポート薬局と地域連携薬局について、法律上の要件とは別に、それぞれが地域においてどういった機能を持つ薬局であるべきかを議論した。地域連携薬局の持つべき機能のうち、医療用麻薬の調剤に関しては、本来であれば処方箋を応需する全ての薬局が持つべき機能であるし、少なくとも地域連携薬局においては必須であると意見を申し上げた。また、医療用麻薬の種類が増え、廃棄する金額も多くなっていることから、麻薬を持つことによる薬局の課題も併せて議論いただきたい旨要望した。

〈経済財政運営と改革の基本方針2024（骨太の方針）原案〉

記者：骨太の方針（原案）では薬価中間年改定について、「2025年度薬価改定に関しては、イノベーションの推進や安定供給確保、国民皆保険の持続可能性を考慮しながら、その具体

的な在り方について検討する」と記載がある。この記載についてどのようにお考えか。

山本会長：中間年改定はやめていただきたいという思いだが、実際問題として可能かという
と、なかなか難しいのではないか。記載については満足かと言うと決して満足はしていない。
医薬品の供給問題の背景には、薬価の引き下げの過剰さも指摘されている。必要な薬が提供
されなくなるようなことはあってはならない。

〈今月での退任を前に〉

記者：会長としての5期10年を振り返っていかがか。

山本会長：総会前に振り返るのは本意ではないが、日薬の体制、他団体や行政との関係など
を安定させるための10年間であった。強いて言えば、薬剤師年金を整理し、会館のことも含
め、次の世代にお金の面で負の遺産を残さずに済んだ。この10年で何ができたかというの
は、皆さんに評価していただくしかないと思う。

記者：安部副会長はいかがか。

安部副会長：日薬には20年ほど前に理事として入り、様々なことに関わらせていただいた。
在宅医療に参画する薬局が増え、処方箋枚数も8億枚を超え、医療計画の中に薬剤師確保が
盛り込まれるなど、それらのプロセスにしっかり関わってこられたことは良かったと思う。
誇りを持って退任していける。

次回の定例記者会見は、7月初旬に新執行部の担当役員の日程を調整の上、決定することと
なった。